

立川市教育委員会 殿

学校名 立川市立幸小学校
校長名 千葉 貴 樹 印



令和4年度教育課程について（届）

このことについて、立川市立学校管理運営規則第12条に基づき、下記のとおりお届けします。

1 教育目標

(1) 学校の教育目標

人権尊重の精神を基調として、心身ともに健康で、人間性豊かな児童の育成に努める。また、主体的に考え、判断する能力を高め、生涯にわたる学習の基礎を培う教育を推進する。

◎自分で考え行う子ども 【課題解決力の向上】

○ねばり強くやりぬく子ども 【主体性の向上】

○なかよく力を合わせる子ども 【ゆたかな心の向上】

○心と体をきたえる子ども 【健やかな体の向上】

(2) 学校の教育目標を達成するための基本方針

ア 「自分で考え行う子ども」の育成を目指し、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を推進し、基礎的・基本的な知識及び技能を活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力等の資質・能力を育成する教育を推進する体制を整備・充実する。その際、児童の発達段階を踏まえた言語環境の整備や言語活動の充実を重視し的確に位置付ける。

イ 「ねばり強くやりぬく子ども」の育成を目指し、多様な体験活動を通して、主体的に最後までやり通す態度を育む教育を推進する体制を整備・充実する。

ウ 「なかよく力を合わせる子ども」の育成を目指し、道徳教育を中心に様々な教育活動を関連させて、地域の自然や環境を愛するとともに、相手の気持ちを考え、自他の生命を大切にする「ゆたかな心」を育成する教育を推進する体制を整備・充実する。

エ 「心と体をきたえる子ども」の育成を目指し、児童が自らすすんで体力の向上や健康の増進を図る教育を推進する体制を整備・充実する。

オ 学校の教育目標の達成に向けたその他の事項

○学校教育全体を通じて人権教育の徹底を図り、人との関わりを重視した活動を通して、偏見や差別のない人間関係を確立するとともに、自己肯定感や規範意識を高め、社会性に富んだ人間性豊かな児童を育成する教育を推進する体制を整備・充実する。

○児童の生命・安全を守るため、学校危機管理マニュアルに基づき、児童の安全に対する意識や、危機を予測し回避することができる能力を高める教育を推進する体制を整備・充実する。

○学校・家庭・地域が連携・協働し「共育」の拠点となる、地域に根ざした学校づくりを推進するため、ネットワーク型学校経営システムの下、コミュニティ・スクール及び外部人材を活用するとともに、地域学校協働本部を核とする地域の教育力を生かして学校経営の体制を充実する。

○児童一人一人に即した特別支援教育を推進するため、特別支援教室「幸小キラリ」の機能を最大限活用するとともに、校内委員会を中心とした組織的な特別支援教育の体制を整備・充実する。

○立川四中校区での連携を意図的・計画的・組織的に推進し円滑な接続を図るとともに、人間関係形成力、意思決定能力等を高めるため、望ましい勤労観・職業観を育成するキャリア教育の充実を図る。

○本校の状況に即して、「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」（以下、学力の3要素と言う）をバランスよく育むため、教科等横断的な視点を持ち、カリキュラム・マネジメントの考え方に基づく教育活動の充実を図る。

○教育の質を高めるため、組織的な学校評価の計画・実施・活用を図るとともに、児童及び教職員の時間に対する意識を高め、教育活動の重点化・焦点化・簡素化を図り、教職員の働き方改革を推進する。

○様々な経営課題や教育課題に迅速かつ的確に対応するため、課題解決志向型組織を整備・強化する。

2 指導の重点

(1) 各教科、特別の教科 道徳、外国語活動・外国語、総合的な学習の時間、特別活動、立川市民科

ア 各教科

- 指導と評価の一体化の観点から、育成を目指す3つの資質・能力「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」に関わる学力の3要素についての評価内容・方法の改善・充実に努める。
- 学力の3要素を確実に身に付けるため、各種学力調査の結果や研究の成果・課題を活用し、研究推進部を中心に組織的に授業改善を推進する。
- 児童の望ましい授業態度を育成するため、「幸スタンダード」を徹底し、話の聞き方、チャイム着席、学習用具の管理等、授業規律に関する指導の充実に努める。
- 「知識及び技能」の向上を図るため、「東京ベーシックドリル」等を活用した反復・ドリル学習を工夫し、学校支援ボランティアを活用した、朝のパワーアップタイムや、「地域未来塾事業」を利用した放課後の補習「さいわい塾」、各学級の状況に即した個別支援を計画的組織的に実施する。
- 「思考力、判断力、表現力等」の向上に資する力を課題解決力とし、具体的に「課題意識をもつ力」・「根拠を明確にして、考え・表現する力」・「比較・関連付ける力」・「統合的・発展的に考える力」の向上を図るものとする。
- 課題解決力の向上を図るため、「課題設定・自力解決・検討共有・まとめ」といった一単位時間の学習の流れを設定する。「課題解決力の育成」を校内研究のテーマとして、「重点教科」を社会・理科・体育と設定し、全学年で研究授業を実施する。
 - ・「幸小授業スタンダード」を徹底することを通して、課題意識（問い）をもたせて、個の学び（自立解決）やグループ・ペアによる学び合い学習を確実に取り入れるとともに、既習事項や事実を生かして、複数の事象を比較・関連させて、統合的・発展的に思考・表現できる場（個の学び・検討共有・まとめ）の設定を重視する。
 - ・思考・表現できる場を設定する際には、「ことバンク」を作成・活用するとともに、ICT機器を効果的に活用して、言葉や文に着目させ、読む、書く、話す、聞く活動を重視し的確に位置付ける。
 - ・一単位時間のまとめの段階では、自己評価の内容・方法を工夫し、自分自身を振り返り、統合・発展など、次の学習につなげていくとともに、自分のよさを自覚し発揮できる場を的確に位置付ける。
- 教科の特性・系統性を重視した指導の充実に努める観点から、カリキュラム・マネジメントを意識して、各教科等における「重点単元」を設定するとともに、全学年で年間を通して、発達段階に即して教科担任制を実施する。
- 児童が自ら進んで体力の向上や健康の増進を図ることができるようにするため、多様な運動経験や体力・健康に関するめあて学習を充実させるとともに体力・健康の関心を高めるための環境を整備する。
- コンピュータの文字入力など基本的な操作習得やプログラミングを体験しながら課題解決力を高める学習活動の充実に努める。また、GIGAスクール構想を踏まえ、一人1台配備されたタブレットPCを効果的に活用する。

イ 特別の教科 道徳

- 全体計画及び年間指導計画に基づき、意図的・計画的・系統的な道徳教育を推進する。
- 道徳的な判断力や実践力の向上を図るため、「考え、議論する道徳」を目指して、体験活動や人との関わりを重視し、自らの生き方を主体的に考え、自己の意見や心情等を積極的に表現し合う活動を充実させるとともに、一単位時間のまとめで児童自ら学習を振り返る自己評価の時間を確実に設定する。
- 道徳教育推進教師を中心にして、東京都道徳教育教材集等を活用した授業の充実・改善を図るとともに、学校・地域の実態に即したテーマを設定し、地域人材を活用して道徳授業地区公開講座を実施する。

ウ 外国語活動・外国語

- 外国語活動・外国語を通じて、自国や他国の言語や文化に対する理解を深め、他者と積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度やコミュニケーション能力を育てる。
- ALTや中学校の英語担当教師との連携により、学習活動の充実に努める。

エ 総合的な学習の時間

- 名称は「幸タイム」とする。
- 課題解決学習を通して、目的・課題意識を明確にもたせ、「思考・判断・表現」の「課題の設定」・「整理・分析」及び「主体的に学習に取り組む態度」の「将来展望」の資質能力に重点を置いて育成する。
- 探究課題「情報」については、第3学年以上の発達段階を考慮して系統的な指導の充実に努める。

オ 特別活動

- 自主的・自立的・実践的な意欲を高め、責任感のある態度を養うため、望ましい集団活動の一環として、学級活動や児童会活動の中で、体験活動や話し合い活動を工夫するとともに、クラブ活動や委員会活動、縦割り班活動など、異年齢集団活動の充実を図る。
- 学校行事では、各教科や「幸タイム」等との関連を図り、児童が主体的に活動する機会を多くする。

カ 立川市民科

- 自己の将来の生き方を見つめながら、玉川上水や畑、施設等の地域の自然や文化、八ヶ岳・清里の自然環境を活用した体験的な学習及び地域の清掃活動、認知症サポーター養成講座の受講等の奉仕的な地域貢献活動等を通して、よりよい地域づくりについて、課題意識をもち探究的に考え発信する。
- 様々な課題解決活動を通して、世界の人々も含めた様々な人々と関わり、よりよい地域づくりの担い手として、地域に愛着をもち、地域に貢献する能力及び態度を育てる。

(2) 特色ある教育活動

- 朝読書の時間や春と秋の読書週間を設定して読書活動の啓発や環境整備を行い、学校及び家庭で日常的・積極的に読書に取り組む児童を育てる。学年の発達段階に応じた読書感想文の取組を充実させる。
- 中学校区での幼保小中12年間の連続した教育を目指し、幼児と児童・児童と生徒の交流の機会を意図的に展開し、授業の交流や教員間の相互研修を推進する。
- 東京2020レガシーの一環として、全校共通で取り組む重点活動を定め、年間を通して実践するとともに児童の実態や学校行事等との関連を考慮しながら指導方法や指導内容を工夫し、体力向上と運動の楽しさを味わい日常的に運動に親しむ態度の育成を図る。

(3) 生活指導

- 学校生活のきまりを守ろうとする児童を育てるため、全校朝会・集会、学級指導等を活用して月目標・週目標の周知の徹底を図るとともに、全教職員が繰り返し指導していくことを通して、規範意識と基本的な生活習慣の確実な定着を図る。
- 全学年・全学級が交代で昇降口に立って声かけを行う活動など年間を通じて「あいさつ運動」を実施し、全校的・日常的なあいさつの定着を図る。
- 生活指導主任を中心に、生活指導夕会や生活指導全体会を活用して、児童の現状や課題について共通理解を深めるとともに、スクールカウンセラーとの連携やハッピールームの活用など組織的な支援策を講じ、一人一人の児童の内面に根ざした指導の充実を図る。
- 経営会議での方針の下、特別支援教育コーディネーターを中心として、校内委員会の定期的な開催、学校支援員の適正配置及び関係諸機関との積極的な連携を図り、支援体制の一層の充実を図る。
- 全児童に、本校が設定する友達に関する「豊かな心」を育てるため、友達に関する全校的な取組や発達段階に即した取組を推進する。
- いじめ防止のため、「いじめ防止基本方針」に基づき、校内委員会をいじめ対策の組織として位置付けて組織的にいじめの未然防止・早期発見・早期対応の徹底を図る。
- 児童の安全に対する意識や、危険を予測したり回避したりする能力を育てるため、安全指導、避難訓練、防犯訓練等を工夫改善するとともに、定期的な安全点検を行い、施設・設備の安全管理と児童の安全確保の徹底を図るなどして防災教育の推進を図る。
- 安全指導や避難訓練、外部講師の活用によるセーフティ教室や薬物乱用防止教室を充実させるとともに、児童を取り巻く環境の変化や児童を守るための具体的な方法、命を大切に教育（自殺予防）及びSOSの出し方に関する教育について共に考える機会を学校公開日等を実施し、設定するなど、地域、関係機関と連携・協働した取組の充実を図る。

(4) 進路指導

- 「立川夢・未来ノート」を活用し、児童一人一人の個性や能力を的確に把握するとともに、自分のよさや可能性に気付かせ、よりよい自己の実現に向けて希望と意欲をもたせる。キャリア教育の視点から望ましい勤労観・職業観の育成を図り、社会の一員としての自覚を高める。
- 小中連携教育の工夫改善を推進するとともに、家庭・地域、関係諸機関との連携を積極的に深め、協力体制を築きながら、児童の健全育成に努める。

3 学年別授業日数及び授業時数の配当

(1) 年間授業日数配当

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
標準	17	19	22	13	0	20	20	20	17	16	19	17	200
1年生	17	20	23	14	0	20	20	21	17	16	20	16	204
2年生	17	20	23	14	0	20	20	21	17	16	20	16	204
3年生	17	20	23	14	0	20	20	21	17	16	20	16	204
4年生	17	20	23	14	0	20	20	21	17	16	20	16	204
5年生	17	20	23	14	0	20	20	21	17	16	20	17	205
6年生	17	20	23	14	0	20	20	21	17	16	20	17	205

- 備考 1 第1～4学年は、卒業式不参加の為のため1日減
 2 振替休業日の設定のない土曜日授業は年間5日実施（5/14、6/4、7/2、11/19、2/18）

(2) 各教科、特別の教科 道徳、外国語活動・外国語、総合的な学習の時間、特別活動、立川市民科の年間授業時数配当表

	第1学年		第2学年		第3学年		第4学年		第5学年		第6学年	
	配当時数	標準時数	配当時数	標準時数	配当時数	標準時数	配当時数	標準時数	配当時数	標準時数	配当時数	標準時数
国語	323	306	326	315	251	245	252	245	179	175	179	175
社会					72	70	93	90	103	100	108	105
算数	144	136	182	175	180	175	181	175	179	175	179	175
理科					93	90	108	105	108	105	108	105
生活	93	87	95	90								
音楽	72	68	73	70	62	60	62	60	51	50	51	50
図画工作	72	68	73	70	62	60	62	60	51	50	51	50
家庭									62	60	56	55
体育	108	102	109	105	108	105	108	105	92	90	92	90
小計	812	767	858	825	828	805	866	840	825	805	824	805
特別の教科 道徳	36	34	36	35	36	35	36	35	36	35	36	35
総合的な学習の時間					40	40	40	40	40	40	41	40
特別活動（学級活動）	36	34	36	35	32	30	33	30	32	30	32	30
外国語活動・外国語					36	35	36	35	72	70	71	70
立川市民科	15	15	15	15	36	35	36	35	36	35	36	35
合計	899	850	945	910	1008	980	1047	1015	1041	1015	1040	1015
余剰時数	49		35		28		32		26		25	

(3) 児童会活動、クラブ活動、学校行事の年間授業時数配当表

学年（年）		第1学年	第2学年	第3学年	第4学年	第5学年	第6学年
		教育活動（時）					
児童会活動	代表委員会	0	0	11	11	11	11
	委員会活動	0	0	0	0	11	11
クラブ活動		0	0	0	12	12	12
学校行事		43	39	43	39	66	68